

令和5年度富山県立大学入学式式辞

令和5年4月6日（木）

アルビス小杉総合体育センター

本日、ここに迎えた677名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。入学試験に合格し、今日の日を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。ご家族の皆様のお喜びもひとしおのことでしょう。

また、本日は、新田富山県知事をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和5年度富山県立大学の入学式を挙行できますことは誠に喜ばしく、教職員を代表し、関係の皆様方に、心より御礼を申し上げます。

皆さんは今日から大学生です。大学生になったらこんなことをしたいと、自らに期待をしてこの入学式に出席していることと思います。皆さんと同様に、私も皆さんに期待をしています。例年のことではありますが、今日は、私の期待をお話しいたします。

私は、皆さんが、価値のある独創的な仕事をする人になるために、在学中に準備をしてほしいと期待しています。

皆さんは、小、中、高校で知識を学習してきました。また、大学でも知識を学習します。これは、AIが学習するのと似ています。学習して身に着けた知識とは、先人が経験や実験を通して得た、たとえば、ニュートンの運動方程式のようなものです。この方程式を使えば、航空機が飛ぶために空気からもらう力を計算できて、とても便利です。皆さんは、これまでも、これからも、このような知識を学習しますが、それとともに、大学の後半では課題解決能力、つまり、学習した専門知識をもとに課題解決ができる能力を身につけることになります。

知識を身につけるのはAIにもできるでしょうから、皆さんは知識を身につけなくてもよい、ということにはなりません。知識を整理し意味を理解しないと、知識を正確に適用できません。ニュートンの運動方程式という知識を力学の問題にどう適用するか、皆さんは高校で訓練してきたわけです。いくらAIに知識を生成してもらっても、その知識の意味が理解できないと、知識を使いこなすことはできません。知識を整理し、理解し、正確に使う訓練はとても大切です。さらに、その先に、知識をもとに、こういう未来をつくりたいんだ、そのために私はこんな仕事をするのだ、という信念や気概が生まれてくるのだと思います。将来を創造する個々の内容は、だれも経験したことがないので、文章としての記録がなく当面AIは学習できません。記録がないにもかかわらず、私たちの将来を

創造できるまでにAIが進化したとしても、社会には受け入れられず、将来の価値ある創造的な仕事は、皆さん一人一人に委ねられるものになるはずで

私の知り合いの家庭のできごとを例にお話します。携帯電話が商品として購入できるようになって、すぐに、夫が携帯電話を買ってきました。妻は家電があるのに、なんで、そんな無駄なものを買ってきたんだ、とせまったそうです。しかし、いまでは、当初よりはるかに多種多様な機能をもつスマホで、孫の日々の成長を場所や時間にかかわらず楽しんでいるそうです。私が申し上げたいのは、過去に人が経験しなかったことは、記録になっていないので、人にもAIにも、記録の学習に基づいた将来の価値を描きにくく、将来の創造は皆さんの信念や気概にのみ委ねられる権利だろうということです。しかし、信念や気概をもって未知の創造に踏み込む皆さんには勇気があります。元東大総長の小宮山先生は、それを「先頭に立つ勇気」という言葉で表しました。

工学部に入学した皆さん。工学は、自然界の真理の探究である自然科学を使って、役立つ製品などを作り出すための学問です。たとえば、運動方程式を使って航空機をつくったり、ローレンツ力を使って電気自動車を作ったりしているわけ

看護学部に入

さらに、大学全体として、デジタル教育研究と持続可能社会教育研究を進めていきます。機械、電気、環境、生物医薬、看護などのあらゆる分野で、デジタルの活用によって、新しい発見、研究開発、付加価値の向上がもたらされます。皆さんの興味があれば昨年供用開始したDXセンターを活用することもできますし、今後、持続可能社会の課題と情報を掛け合わせたGX研究センターの設立を計画して

さらに、コロナ禍のため、海外になかなか行けなかった期間が続きましたが、大学は今後、海外での学会発表、海外の大学との国際交流などの機会を通して、

皆さんの海外体験を応援します。

これらの研究や教育や海外体験の向こう側に、どんな自分自身があるのか、在学中に、目標を作ってみてください。高校では、教科書中心の勉強とクラブ活動が中心だったと思いますが、大学では、日本や世界を体験し、多様な価値観をもつ友人を作り、教員と話をしながら、将来寝食を忘れて没頭できる職業や生き方の目標をつくり、そこに到達するためにどのような道をたどるのがよいのか設計をしてみてください。

大学の教員から得られるものについてもお話したいとおもいます。私の大学学生時代の指導教員の三浦先生は、アポロ計画でアポロ11号が月面に人を送り込んだ1969年の少し前、アラバマ州ハンツビルのマーシャル宇宙センターで研究をしていました。そのときのセンターの所長は、月の氷でウィスキーのロックを飲もうと、皆を鼓舞してアポロ計画を成功させたそうです。また、その三浦先生が米国滞在中、アメリカの住居では水道の蛇口からお湯がでた、歩いて買い物にいと見知らぬアメリカ人から親切に車で送ろうかと声をかけてもらえた、など、当時の経験を学生の私に授業中に教えてくれました。これは本を通しては伝わらない新鮮な話で、私の進路を大きく決定づけました。皆さんも、授業中の何気ない教員の雑談に耳を澄ませてください。教員の外国での体験、研究での挫折と成功など、皆さんにとってかけがえのない道標となるでしょう。

最後に、皆さんにお願いしたいことを並べます。

一つ目は、ひろく友人をつくってください。大学には、様々な人が、いろいろな地域から入学しています。皆さんの隣の人、皆さんと同様に友人を作りたいと思っています。この式が終わったあとで隣の人に、さらに、クラスやサークルでも、こんにちとは声をかけてみてください。授業やゼミで、教員と話をしてみてください。教員は皆さんが想像しているよりずっとフレンドリーです。大学内に友人や知り合いをつくり大学に愛着をもつと、人のネットワークができて、共に楽しんだり、悲しみを癒してくれたり、また深い穴に落ちかけたときに助けてもらうこともできます。このネットワークや大学への愛着は卒業後も続き、友人に悩みを聞いてもらったり、一緒に旅行したり、仕事上の課題を教員に相談したりもできます。皆さんが想像するよりも大学時代のネットワークは歳をとっても続くものです。

二つ目は、背伸びをしてください。ひろく、活動範囲を広げ、たとえば、海外への短期の留学も考えてみてください。私の知る女性の大学生が、短期留学に行く勇気がないと不安で泣いて抵抗したそうですが、結局留学した今となつては、留学したことで自分自身が大きく成長できたと喜んでいるそうです。保護者の

皆様も、そのようなときには、今日の私の話を思い出し、そっと背中を押すことも考えてくださるようお願いいたします。

三つ目は、世界一を目指してください。私は小さいころ、富士山が世界一の山だと思っていました。しかし、もっと高い山がありました。では、独立峰だと富士山が世界一かと調べてみると、富士山より高い独立峰がある。一方で、広重や北斎の浮世絵のなかに描かれた山で世界一といえば富士山になるでしょう。言いかたがずるいようにもおもいますが、浮世絵という文化の側面を勘察した世界一というの、立派な世界一です。皆さんも、標高だけを山の物差しとせず、視点の異なる土俵やルールのもとでも世界一を目指してください。

結びとなりますが、富山県立大学に入学してよかった、成長が実感できたと、皆さんに思ってもらえるよう、教職員は、皆さんの成長を応援いたします。改めて、富山県立大学に入学する皆さん、本日はおめでとうございます。

令和5年4月6日

富山県立大学 学長 下山 勲